

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人武蔵野文化事業団	
施 設 名	武蔵野市立吉祥寺シアター	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額（総額）	963	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	963	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	吉祥寺ファミリーシアタープロジェクト	2018年6月1日-3日、 2019年2月、ほか	〈吉祥寺ファミリーシアター2018〉＝倉迫康史（演出）、Theatre Ort（出演）、他 〈アウトリーチ『よふかしの国』〉＝山本タカ（作・演出）、橋花梨、堀晃大（出演）、他	目標値	1,300
		吉祥寺シアター、武蔵野市内小学校、他		実績値	1,626
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,300
				実績値	1,626

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

吉祥寺シアターは、「若者に人気のアート・カルチャーの街」と「幅広い年代のファミリー層の生活拠点」という、2つの異なる側面を持つ吉祥寺という街の文化発信の拠点として機能することをミッションとしている。本事業は、後者の「幅広い年代のファミリー層の生活拠点における文化の発信地」という側面において、入場無料・予約不要で多くのプログラムを実施することで、普段劇場や演劇に馴染みのない子どもたちやその保護者が、生活の中で気軽に文化芸術と出会う場を提供することが出来た点で、妥当性の高い事業であったと考える。

また、子どもたちが幼少期から、舞台芸術に触れ、多様な感性を養うことができる機会を創出すると同時に、出産を境に劇場に足を運びづらくなってしまった保護者たちにも焦点を当て、作品の題材として大人も楽しめる文学作品を採り上げる、全てのプログラムにおいて乳幼児と共に入場可能および入退場自由とする、劇場内に授乳やおむつ替え用のスペースを設置する、などの取り組みにより、「子を育み、親を支援する劇場へ」という当劇場の普及啓発事業全体の目標に対しても、適した事業を実施したと言える。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

武蔵野市が待機児童問題に熱心に取り組んでおり、子ども向けの政策に注力し続けている中で、文化芸術を用いた手法によってそれらの課題に働きかけている当事業は、行政のみならず子育て当事者といったステークホルダーからのニーズに応えると共に、地域の文化施設がもつリソースを可能な限り活用しているものである。子育て世代の生活の向上に寄与し、子どもの未来を育む点で意義深い事業であるとステークホルダーからは受け止められている。したがって、本事業は助成に値する文化的・社会的意義が継続して認められる事業であると言える。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

申請時に掲げた事業全体の目標参加人数は1300人であったが、実際にはそれを大幅に超える1600名超の方が本事業に参加・来場した。

2019年度から本格始動予定であった学校でのアウトリーチプログラムについても、2018年度に吉祥寺シアターのオリジナル作品を製作し、上演を開始することができ、2019年度もその作品で既にアウトリーチを開始している。

その他の事業の定性的目標として、「参加・体験型プログラムも採り入れ、子どもの多様な感性を育む」「子育て世代が家族で気軽に舞台芸術に触れられる環境整備」「演劇を介した子育て世代の交流の場として機能する」といったことを掲げたが、いずれも達成できたものと考えている。

具体的に述べると、「吉祥寺ファミリーシアター2018」の参加・体験型プログラムに関しては、上演と関連を持たせた、単発で終わらない仕掛けが保護者の方からも非常に好評をいただいた。アウトリーチのように事前の日程に参加型ワークショップの時間が取れない場合でも、上演そのものに参加型の要素を盛り込むなど、できる限り鑑賞だけに終わらない工夫を施し、参加者の能動的な取り組みや創造性を引き出すことを試みている。

環境整備の点においては、本プログラムの未就学児から誰でも参加できる点や、一部プログラムでの入退場自由・予約不要という方式が、保護者の方から歓迎の声をもって受け止められており、また、子育て世代の交流という点では、特に「吉祥寺ファミリーシアター2018」において、多くの家族が一堂に劇場に会することもあり、保護者同士でも自然と会話が生まれているのが現場で見て取れた。

「吉祥寺ファミリーシアター2018」では初めて劇場を訪れるという観客がほとんどであったが、2019年度に開催した第2回目には、昨年1回目に引き続き参加して下さった方も多く、今後の定期的な開催により定着が期待できるものと考えている。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

申請時と同様の日程で開催したが、概ね適切であったと考えている。その根拠としては、来場者アンケートにおいて、子ども向けイベントの開催希望曜日と時間帯を問うたところ、一定数「平日がベストである」という回答があり、その理由として、平日の母子しか家にいないときに、遊びに行くことのできる場所や、子どもに体験を与えられる機会があることは貴重だという点が上がった。需要の高い土日と平日を組み合わせることで「安心して子どもを遊ばせることのできる場づくり」「子育て世代の方の息抜きの場」という目標を、より広いニーズに対して達成できた事業日程であったと考えている。事業日程における課題としては、有料の演劇公演のチケットが早々に完売してしまったことである。子育て世代のニーズが「土日祝日」の「午前中～午後4時」までに集中していることを踏まえると、公演を増やすためには好評であった参加型プログラムを削らざるを得ず、悩ましい点である。

事業費に関しては、収支の観点と満足度の観点の2点に分けて考えたい。

収支の観点で言えば、本事業は入場料収入が少なく、相当額の赤字となっているが、ファミリー向けに「敷居を下げる」という観点から、演劇公演以外は入場無料、演劇公演についても一般的な公演と比べると非常に安価に設定しており、予算書の段階で入場料収入が少ないことは織り込み済みであった。

満足度の観点ではどうか。アンケートなどから、「よみしばい」「参加型プログラム」については無料で予約が不要であることの気軽さへ、有料の演劇公演については低料金で上質な公演が親子ともども楽しめることへの満足度が現れていた。

本事業は赤字事業ではあるものの、事業の目的や顧客満足度を考えると、大幅な料金の値上げにより収入を確保することよりも、事業を根付かせ、その効果を一定以上蓄積していくことが先決であると考えているため、適切な事業費であったと考えている。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

吉祥寺シアターが担うミッションは「吉祥寺の文化発信の拠点」であることであり、本事業の開催により〈次世代を担う子どもたちに舞台芸術を届け〉、劇場が地域の方でにぎわう、まさに〈街に開かれた劇場〉になる点で、本事業は、吉祥寺シアターが掲げるミッションを体現する事業であると考えている。また、上述のミッションのもとには他に〈地域の創造活動の拠点〉という活動の柱が掲げられている。そうした役割を担うべく、「吉祥寺ファミリーシアター2018」では、鑑賞型のみならず参加型のプログラムを設け、子ども同士、そして保護者同士が自然とコミュニケーションをとれるような環境づくりを心掛けた。また、この参加型プログラムには最終日に開催する演劇公演の舞台セットづくりや小道具づくりを加えることで、既にできあがった演劇作品を鑑賞してもらうだけでなく、演劇製作に携わってもらう機会とし、参加者自身の創作意欲を発揮できる場としたことも大きな特徴であり、地域の文化拠点として最大限その機能を発揮できた事業であると自負している。

そして、可変性のある劇場という特性を生かし、劇場内の床面を極力フラットにし、小さい子どもたちが移動したり、走り回ったりしても安心なようなセッティングが可能となるなど、劇場機構も当館が地域の文化拠点であるうえでの、強みであることを再認識した。

また、「劇場を丸ごと満喫してもらう」というコンセプトのもと、カフェスペースやロビースペースでも子どもたちが遊ぶことのできる仕掛けを用意し、劇場で朝から夕方まで1日中楽しんでいただくことで、劇場という場所に慣れ親しんでいただく機会としたことも、事業の大きな特徴と考えている。さらに、学校向けのアウトリーチプログラムについては、公共施設が武蔵野市の放課後施設で演劇作品の上演をすることは初めてであり、公共施設だからこそのパイプを生かして学校と連携することが可能となった。加えて、未就学児や地域の小学校に通っていない子どもたちに向けて、地域の施設でもアウトリーチを重ねている。それらの、様々な場所で開催されるイベントのすべてに「吉祥寺ファミリーシアター」という同じ冠をつけていることは、吉祥寺シアターがファミリー向けの事業に力を入れており、様々なコンテンツを有しているとアピールするために工夫した点である。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

本事業は様々なメディアで紹介をされており、J-WAVEのラジオ番組や地元ラジオ局、サンケイリビング新聞などで採り上げられた。実際それらのメディアで情報に触れ、来場した方も多数いらしかった。ちなみに、2019年度に開催した第2回目のファミリーシアターでは、朝日新聞、読売新聞に採り上げられるなど、より一層注目度を増していると考えている。

SNSやwebサイトをはじめ自社メディアも積極的に活用しており、webサイトでの基本情報の案内やネット予約システムの構築はもちろんのこと、イベント開催中のリアルタイムな情報発信も積極的に行うとともに、「#吉祥寺ファミリーシアター」というハッシュタグを用意し、来場者からの口コミ発信も呼びかけるなどの取り組みを行った。

ステークホルダーからのニーズの把握方法としては、来場者アンケートにおいて質問事項を工夫しているほか、子ども連れだとゆっくリアンケートが書けない可能性を考慮し、webアンケートを導入するなど、ステークホルダーが積極的に意見を述べやすい環境を整える試みを重ねている。

本事業における吉祥寺シアターの取り組みは設置者である武蔵野市からも大いに注目を集めており、武蔵野市や地域の他施設が開催する子ども向け・ファミリー向けイベントにおいても、当館が人材紹介や助言を求められるようになってきている。

上述の様々な観点からの状況を踏まえ、当館が本事業を通じて地域の文化拠点としての力を発揮しつつあると感じている。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

「吉祥寺ファミリーシアター2018」に関しては、地域の大学で保育を学んでいる方々に、アルバイトという形で運営を行っていただいた。劇場スタッフが普段触れ合う機会の少ない小さな子どもたちが多数ご来場することを踏まえ、そういった世代とのかかわりに慣れている大学生の協力は大いに助けになった。半面、保育を専門に学ぶ学生にとっては、実践的に子どもと触れ合う機会が、今後のキャリア展開の一助となることを期待している。こうした学生との取り組みは、この先本事業を継続し、さらに事業規模が大きくなりボランティアなどが関わることになる将来像を見据えたものでもある。

このように、今後本事業を継続的に開催していくために、主体性をもって事業に関わる人（＝関係者）を増やすことが重要ではないかと考えている。押しつけのような形ではなく、あくまでも主体的に望む／臨む方とご一緒することにより、コミュニティの規模、積極性、影響力を拡大し、本事業に留まらず、組織活動全体の発展に繋げていきたいと考えている。

学校へのアウトリーチについては、行政関係者より度々「小学校は忙しい」という話を耳にし、カリキュラム以外の内容を授業で採り上げることが年々難しくなっていると聞く。その反面、共働きの家庭が増えたこともあり、放課後教室や学童は盛んになっているという声も耳にする。そこで、武蔵野市の小学校の放課後教室「あそべえ」や学童を運営している、公益財団法人武蔵野市子ども協会に協力を仰ぎ、小学校の放課後教室でのアウトリーチ公演のコーディネートを依頼した。「あそべえ」や学童クラブは、子どもたちへの新たな体験を積極的に探しているとのことで、単発に留まらない協力関係が期待される。同協会はその他、児童館や子育て施設も管理運営しており、アウトリーチ活動も様々な対象にむけて発展的に継続していけるものと考えている。